

虚空蔵山古墳



小見真観寺古墳のすぐ北側にある古墳で、現在は前方部の一部を残して崩れてしまっています。最近の発掘調査で後円部と周溝の一部が確認され、周溝内から笑い顔の女性の埴輪、馬形埴輪、太刀形埴輪等の破片が発掘されています。6世紀後半に築かれた全長約60mの前方後円墳ではないかと思われます。近くの嶺雲寺の前には、円墳の天神山古墳も残されています。

小見真観寺古墳（国指定史跡）



真観寺境内にある墳長102m、高さ8mの前方後円墳で、後円部と鞍部の2ヶ所に横穴式石室があります。鞍部の石室内から金環、鉄製刀子、金銅装頭椎太刀、銅鏡などが発見されています。最近の発掘調査で周溝が確認され、その底付近から埴輪の破片が多く発掘されています。6世紀末から7世紀初め頃に築かれた市内最後の前方後円墳ではないかと思われます。

大日塚古墳（市指定史跡）



行田市史料館の庭にある5世紀末頃に築かれた直径約18mの円墳です。墳丘下には6世紀前半の粘土槨2基、5世紀末頃の箱式石棺1基が上下に設けられています。少なくとも2回に渡って3人の人物がこの古墳に葬られたようです。その後嘉禎2年（1236）に大日種子板石塔婆（県指定考古資料）が墳頂に建てられましたが、現在は史料館内に移されて保存・展示されています。



浅間塚古墳



埼玉古墳群南東部、前玉神社の境内にある直径約50mの円墳です。墳頂に前玉神社、中腹に浅間社がまつられており、万葉歌碑の石燈籠（市指定工芸品）があります。比較的最近まで古墳かどうか不明確でしたが、発掘調査で幅10mに及ぶ周溝が確認され、古墳と判明しました。7世紀前半頃に築かれたと推測され、埼玉古墳群の終わりを考える上で重要な古墳と言えます。

真名板高山古墳（県指定史跡）



真名板薬師堂境内にある6世紀後半に築かれた二重周溝をもつ前方後円墳で、埼玉古墳群の二子山古墳と良く似た形をしています。この古墳は現在までの約1,400年の間に、古墳を乗せた地盤が徐々に沈み、洪水などで回りに土が積もった結果、約3mも地下に沈んでしまっていると考えられています。そのため目に見るよりも大きく、全長約127mと推定されています。

地蔵塚古墳（県指定史跡）



7世紀後半に築かれた一辺28m、高さ4.5mの方墳と考えられています。県内で唯一の線刻壁画をもつ装飾古墳で、横穴式石室の壁に水鳥、舟に乗った人物、馬、弓矢を持った人物などが描かれています。壁画を保存するために石室は公開していませんが、さいたま市の県立歴史と民俗の博物館で、壁画の複製を見学することができます。市内の古墳文化の最後を飾る古墳です。

八幡山古墳（県指定史跡）



7世紀前半～中頃に築かれたと思われる直径約80mの円墳です。昭和9年に古墳が崩された際に、全長16.7mの3室からなる巨大な横穴式石室が現れました。奈良の石舞台にも負けない大きさであることから「関東の石舞台」とも呼ばれています。石室内からは近畿地方の天皇陵で使われる漆塗木棺の破片などが発掘されています。（土・日・祝日の10時～16時に石室公開）

白山古墳



埼玉古墳群の北端にある直径約50m、高さ5.7mの円墳です。墳丘の一部に白山姫神社がまつられていて、その東側に横穴式石室の奥壁と思われる緑泥片岩が露出しています。また、社殿前の石段右手に積まれている角閃石安山岩も、石室の壁材であると言われています。7世紀前半頃に築かれたと考えられており、埼玉古墳群の終わりを考える上で重要な古墳と言えます。